

マテリアリティから読み解く 価値創造の要点

ツムラグループは、創業の精神とこの先の未来を見据え、究極的に成し遂げる事業の志であるパーパス「一人ひとりの、生きるに、活きる。」を掲げ、多様な社会を創り、一人ひとりが輝く未来の実現に向けて、天然物由来の医薬品・製商品の価値を広げる事業改革に取り組んでいます。自然の叡智を科学することで成長してきた当社グループにとって、持続可能な社会と自然環境に根差した共通価値の創造(CSV)に取り組むことこそ、競争優位性を高め、企業価値向上に寄与するものと捉えています。

すべてのステークホルダーと長期的な共通価値を創造するため、パーパスを起点に当社グループのCSVを整理し、マテリアリティ(重要課題)として特定しました。事業活動の結果として「天然物由来の医薬品・製商品による新たな価値の創出」と「伝統医薬である漢方製剤等の医薬品の持続的安定供給」を高い次元で成し遂げるために、未来を見据えた戦略的アプローチを設定し、経営環境の変化に対応しながら、独自の強みをさらに磨き上げていきます。

当社グループのマテリアリティは、CEOが描く長期的な価値創造の方向性を起点として、グループの強みや潜在的な可能性、社会課題、ステークホルダーの期待といった観点を踏まえて整理したものです。事業活動を通じた価値創造の構造を明確にすることで、ステークホルダーの皆様が当社グループの取り組みをより分かりやすくお伝えするためのフレームとして位置づけています。

今回、各マテリアリティが社会価値および財務価値をどのように生み出し、企業価値の向上へつながるのかを事例として示しました。これにより、当社グループの事業活動が描く中長期の価値創造の姿を、より立体的にご理解いただくことを目指しています。

マテリアリティの抽出プロセス

- 1 パーパスを起点にツムラグループのCSVにおける3つのレバー*と長期経営ビジョンのつながりを整理
- 2 パーパスと経営理念から、ツムラグループが目指すべき「社会との共通価値の創造」を整理
- 3 ①と②で整理した要素を、サステナビリティビジョンの方向性と時間軸でマテリアリティ(重要課題)として特定

* 経営学者マイケル・ポーターが提唱するCSV(Creating Shared Value: 共通価値の創造)を実現する3つの方法(レバー)のこと(①次世代製品・サービス創造、②バリューチェーン全体の生産性改善、③地域生態系の構築)

社会との共通価値の創造

天然物由来の医薬品・製商品による新たな価値の創出

TSUMURA VISION “Cho-WA” 2031では、治療・未病・養生(予防)それぞれの領域で、一人ひとりのライフステージに合った天然物由来の医薬品・製商品の新しい価値の提供により、人々の健康に貢献し、心と身体、個人と社会が調和のとれた未来を目指しています。

科学する

伝統医薬である漢方製剤等の医薬品の持続的安定供給

1400年以上かけて日本の風土・気候・体質などに合わせて独自の発展を遂げた日本の伝統医学である「漢方医学」を後世に継承するため、企業使命「漢方医学と西洋医学の融合により世界で類のない最高の医療提供に貢献します」を果たします。安全性・有効性・均質性を追求した科学的な根拠に基づく漢方製剤を安定供給していきます。

マテリアリティ		企業価値とのつながり事例	戦略的アプローチ
自然	持続可能な原料調達 (生薬の栽培化研究等)	● 自然資本リスクの低減 ● 原料調達コストの安定化 ● 販売数量伸長に対応した原料生薬の確保 ● 高品質な原料生薬による持続的な競争優位性の確保 ● 棚卸資産の最適化	● ツムラ調達方針に基づく持続的な契約栽培 ● 自社管理圃場比率約80%の維持 ● 気候変動・自然資本関連リスクに適用できる持続可能な生薬栽培
	資源の循環利用 (水・生薬残渣の再資源化)	● 廃棄処理費の削減 ● アップサイクルによる高付加価値の創出	● 未利用資源の利活用を通じたサーキュラーエコノミーの構築
	生物多様性の保全 (森林・土壌・水源の涵養)	● 原料生薬の中長期的な安定調達	● 生薬栽培に関わる生態系・種・遺伝子の保全 ● 生薬栽培地およびその周辺地域における森林水源涵養機能の拡大
	気候変動対策 (カーボンニュートラルの実現)	● エネルギー調達コストの低減 ● CO₂吸収源の確保による、将来の炭素税・排出規制によるコスト増加の回避	● 省エネ技術の導入 ● 樹木系生薬栽培によるCO₂吸収 ● CO₂フリー電力の導入
健康	天然物由来の高品質な医薬品・製商品へのアクセス拡大	● 医療用医薬品以外の市場(薬食同源等)への価値創造領域の拡大による収益の多柱化 ● 安定供給・ローコストオペレーション体制の確立と製品価値の向上	● 日常的に漢方製剤・薬食同源製商品を取り入れた生活 ● 漢方薬、中薬をはじめとした製商品・サービスをエビデンスベースで提供 ● DXの推進による漢方バリューチェーン改革 ● 企業価値向上に向けたステークホルダーとの協働
	漢方の標準治療の拡大とエビデンスの構築	● 多成分系複合製剤として、超高齢社会で増える複数の症状へ対応 ● 治療における費用対効果の向上	● エビデンスに基づいた漢方標準治療の拡大 ● 健康長寿社会への貢献
	最先端技術による漢方の個別化治療への取り組み		
	一人ひとりのライフステージに合った健康への貢献 (治療・未病・養生(予防))	● 漢方市場の持続的拡大 ● 消費者との接点の多様化 ● 潜在的な健康課題を可視化し新たな需要を創出	● 一人ひとりのライフステージに合った価値の提供 ● 未病の科学化による未病改善の普及への貢献
経営 基盤の 強化	コーポレート・ガバナンスの進化・深化	● レピュテーション維持による資本コスト低減	● 取締役会のさらなる実効性の向上 ● 執行と監督のさらなる分離 ● 取締役会メンバー構成の多様化
	多様な人財の活躍	● 組織・人的資本の強化による戦略実行力の強化と生産性の向上	● 「漢方薬的組織」を目指した組織開発の実施 ● スキルマップに基づく人財の採用、配置、育成
	潜在能力を「対話」により引き出す企業文化の醸成		● 目的・価値を求心力とした「対話」によって潜在能力を引き出す企業文化の醸成